

エネルギー・環境システム工学専攻

人材養成および教育研究上の目的

エネルギー・環境システム工学専攻においては、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適合した化学プロセスや装置の研究などを通して、高度な研究者、技術者を育成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本専攻では、人材養成・教育研究上の目的を達成するために、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適合した化学プロセスや装置の研究に興味・関心を持っている者、またそれらの深い専門知識と探求創造能力を身につけることに強い意欲を持っている者、さらにそれらを通じて特にエネルギー・環境分野において地域ならびに国際社会に貢献ができ、また高い倫理観を持って工学に携わる高度な研究者や技術者を目指す者の入学を求めている。なお多くの学生や社会人および外国人留学生に進学の門戸を広げるため、一般の入試に加え、社会人入試や外国人留学生入試を設けており、秋季、春季の2回実施される。入試では、英語あるいは小論文と専門試験、口頭試問を実施して研究歴や研究計画を確認し、将来性のある有望な人材が選抜される。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学専攻は、熱エネルギー工学、電気エネルギー工学、都市環境工学、環境材料工学、環境プロセス工学および資源循環システム工学の6専修から構成されている。各専修には特別研究が設けられており、博士論文作成に精通した研究指導すなわち学生の自主性を重視すると共に、より優れた研究成果が挙げられるように一人ひとりにきめ細かい指導を行っている。また関連する専門分野とその境界分野を加えた特論科目を設置して、専攻独自の特色を生かしながら幅広い教育・研究指導も実施している。さらに今後は、国内外の大学との連携・交流なども強化拡大し、学生の能力開発に資する様々なプログラムを用意して多面的な研究教育を実施し、より広い学識と国際的視野を持つ高度な研究者・技術者の育成を目指したい。





❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻における学位を取得するには、エネルギー・環境分野の各専修での博士論文作成を通して高度な専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力やその基礎となる豊かな学識を有する研究者あるいは技術者として独り立ちできる資質を備えるに至ったと最終的に判断される時に博士の学位を授与する。また学位論文の審査に当たっては、主に次の審査項目について総合的に評価を行い、合否を判定する。すなわち ①研究テーマの学術上の意義、②世界における関連分野の研究動向の把握および当該論文における研究成果の位置付けの的確さ、③研究成果の新規性、信頼性および有効性、④論文の形式や表記の適切性、叙述の明確性などの論文作成能力である。さらに学位論文の審査方法は、まず博士論文事前審査委員会を設置して、提出書類に基づき申請者が申請資格に適合するか否かを、査読付き参考論文も含めて厳格に判定する。また指導教員を含む複数の審査委員の中に審査対象となる研究分野を専門とする学外審査委員を1名以上加えて、最終審査（公開）を行う。なお学位取得後の就職などの進路については、指導教員をはじめ大学院スタッフが熱心に対処する。

